

波 紋

1998 10 月 第160号

第6回 元気が出る森松展

～感謝～ 不況に感謝！
環境問題に感謝！

1998年10月1日(木)・2日(金)

【入場無料】 当日名刺2枚御持参ください。

1日 午前9時～午後6時

2日 午前8時～午後6時

会場：森松(株)本社 5F 展示室

『講演会』

テーマ：「環境ホルモンと塩化ビニール」
講師：小野通昌《アキレス(株)フィルム販売部 部長》
開演：10月1日(木) 午後1時30分～午後2時30分
会場：4F 会議室

『出展企業』

アキレス(株)	明和グラビア(株)	菱興プラスチック(株)
モリト(株)	萩原工業(株)	アサヒ合成工業(株)
日本ウェーブブロック(株)	積水成型工業(株)	オカモト(株)
サンビック(株)	シーアイ化成(株)	小池理化学工業(株)
東和合成工業(株)	三菱化学MKV(株)	カンボウプラス(株)
三協化成(株)	山本ビニター(株)	(株)アイピーシー
桑名銘版(株)	(株)プラスコーポレイション	(株)クリエテック
カネコ産業(株)	広島化成(株)	(株)ホホワイトマックス
杉産業電機(株)		(順不同)

「不況克服策」

経営の神様、松下幸之助翁の著作を読む機会に恵まれました。その中に、「不況克服の心得十ヶ条」がありましたので紹介させていただきます。

折りしも不況深刻化の折り、又「不況に感謝」をテーマに、森松展が開催中でもあります。

第一条：『不況またよし』と考える。

第二条：原点に戻って、志を堅持する。

第三条：再点検して、自らの力を正しくつかむ。

第四条：不転の覚悟で取り組む。

第五条：旧来の習慣・慣行・常識を打破する。

第六条：時には一服する。

第七条：人材育成に力を注ぐ。

第八条：「責任は我にあり」の自覚を持つ。

第九条：打てば響くの組織作りを進める。

第十条：日頃から成すべき事を成しておく。

言われてみれば、ほとんどが当たり前に思える事ばかりです。やはり経営に奇手はないという事でしょう。

経営の神様と平凡な経営者の違うところは、当り前の事を当り前に、ただし徹底的にやるかやらないかにあるようです。中途半端で行動しては、到底、不況克服は出来ないう事ですね。

私も徹底的に行動せねばと反省。



森 信之

トシ君の一方通行

「トイレ」

以前勤めていた会社で、18歳の時に、トイレの防臭剤の交換業務を言いつけられたことがある。名古屋駅の主たるビルのトイレ全てである。容器の中にある防臭剤の交換であります。これには参った。男子トイレはいいとして、女子トイレが問題でありまして、いちいち女子トイレが空くのを待っている訳には……、日が暮れてしまいます。とにかく恥ずかしくなかった。何せ18歳であります。顔を真っ赤にして仕事をしておりました。痴漢のように見られたりね……。こうなると健康に悪いので開き直るしかなかった。いちいち恥ずかしくていたら効率が悪いし体によくない。こちとら仕事だ……不思議なことに堂々としていると女子使用者も見目が変わってきたような気がする。あれは後日大変貴重な経験になったと思います。こういうような恥をかきような研修会がその後出てきましたが、お金を払わなきゃあかんですが、無料で経験出来るどころか、給料をもらっておりました。給料をもらいながら研修会を受けているようなことってありませんかね、苦しいと思う時、研修会……つまり勉強会であると思えば……

無料どころか給料がもらえるとすれば、すごく効率がいいなあと……。考え方次第ですね。何事も……。



木村英利

森松カルテット

「チャパツとピアス」

中日新聞に連載されていましてしたので、皆さんも記事を読んだと思います。現代の若者の行動や考え方などを記事にしたものでした。

この記事を見た時に、子供に言った言葉を思い出し笑ってしまいました。2〜3年前に二十歳になるまでは、チャパツとピアスは許さんと聞いていましたので、偶然にしろ笑えてきました。

この時に、子供より学んだ言葉を紹介します。「プリン頭」です。髪の毛を染めたあと、自毛が伸びて色が変わり、プリンのように色違いになることです。

私も十七歳の頃、岩城混一に憧れ、稲妻メッシュを真似した覚えがありますが、今ではメッシュを入れる髪の毛も無くなってしまいました。しかし、男性でもチャパツにする気持ちは理解できます。本人は、カッコ良いと思っているのです。

最近チャパツ頭に多く見るのは、暑い中で作業をするでも無いのに頭にタオルを巻いている、インド人もビックリのタオルターバン男です。カッコ良いと思っているのでしょうか。もう一つ、ロン毛ですが、なんとかならないでしようかね。後ろから見ると男性なのか女性なのか分からない。まあ本人がカッコ良いと思ってるのですからよしとしましょう。

若い時に髪の毛を染めたことのある髪の毛の少なくなったオヤジから一言でした。



光田昭男

喜怒哀楽

「意識改善」

私が住んでいる所はゴミの出し方が結構厳しく、3種類の町指定ゴミ袋を最寄りのスーパー・薬局等で購入し、その袋に決められた物を入れ町内名及び氏名を記入し、決まった曜日に決められた場所に出す事になっていった。始めは決められた袋に決まったものなのから分らず、ゴミ袋別一覧表片手に苦労しました。ラップは勿論の事、菓子袋やスナック類でもプラスチック類になり、燃えるゴミとは別の袋に入れるのです。3年も住めば慣れたもので、今では苦にせず生活しています。我が家に来る客人も、3個のゴミ箱にちゃんと種別して捨ててくれます。しかしゴミはこれだけでは無く、月一回資源ゴミの日がありまして、新聞・アルミ缶・ビン類等を燃えるゴミなどを出す場所とは別の場所に出す決まりがあります。先日その資源ゴミ分別当番というのが回って来まして、朝7時から参加しました。分別カゴがあるものの全然違うものが入っていたり、袋のまま出していたり、その中には中身が残っている缶、キャップがついたままのビン、そればかりか未開封の調味料やなぜか生ゴミまでも……それらを手作業で種別するのですが、臭いのなんのつてまったもんじゃありませんでした。なぜこんなになりにマナーが悪いのでしょうか。自分が片付けるのには無いからでしょうか。誰も見ていないからではなく、少し気を使うだけでずいぶん違うのかなあと思う。勿論、ゴミを出さない工夫が大切ですが、リサイクル出来るものはし易い様に出す協力が必要だと思います。ダイオキシンだなんだと騒ぐ前に、一人一人の意識改善が大切だと思う。



中山ひとみ

改善発表会ご講評

※ 去る8月22日に行われた改善発表会にて審査員を務めて頂いたお二人からの貴重なコメントです。

「目的・目標は夢のあかし」

第12回改善発表会の審査に参加しました。第1回目(1992年3月27日)に新日本法規さんの研修所で行われて以来、丸6年になります。年間2回づつ着実に発表会が開催され、改善内容といい、発表技術といい、格段に向上していることを感じました。

改善活動は、こつこつと階段を上る行為がいつしか50段、100段、1000段に達する、まさに継続することによって効果の出る活動です。グループ「ポピー」のキャッチフレーズ「コツコツコツ」は、改善の本質をついています。改善活動の成果(サクセッション)は重要ですが、

「日本経済の土台」にあり

マズローというフランスの社会学者が「欲求5段階説」というのを提唱していることは御承知と思います。その説の中で、一番に人間が望んでいるのは「自己実現能力」ということです。

「自己実現」とは、自分の能力を最大限に発揮できた時に得られると私は考えております。人は、それぞれの能力を思う存分に発揮できた時に喜びを感じるものです。まさに、「改善発表会」は、そんな場所だと思います。その観点からみると、多くのグループで、発表者は「自

この活動を通しての意思疎通(コミュニケーション)、能力開発(モチベーション)も大切なことです。今回の審査では、この3つの「シジョン」についても意識して審査項目に入れました。

今回の発表会で2、3の印象について述べます。まず「映像分析が有効だな」と感じたのは、「ひまわり」のIIカードの記入忘れをなくせIIでありました。VTRを駆使して、現状解析をし、改善後の説得力ある効果をさらに画像表現することが出来ました。今後の課題で、改善した方式を持つ問題点の分析があれば満点の発表になったと思います。

テーマの選定理由と問題点の分析は、

審査員の目

「己実現」という目標を達成された方が多く見受けられました。グループ全体でどうだったかという面では、その観点から伝わってきませんでした。グループで一つの目標にむかって全力をあげて取り組むという姿勢が望まれます。

現在、日本経済は①消費不況、②金融システムの不安による先行きの不透明感などいくつかの暗い状況が続いていることは御存じのとおりです。

こんな時代に生きていくには、何が大事かといえば、個々の実力をつけ、それを集団としての力に結集することであり、

各グループともよくできていたと思います。しかし、次のステップの目的・目標の設定が明確になっていませんでした。唯一「さくらんぼ」は、明確な目的・目標が活動開始時に決まっていたので、改善活動がそれに向かって起こされ、初期の目的を達成できました。目的・目標が鮮明であればあるほど、それに向かう筋道が明かになり、それを手にするために必死に努力し、集団が結束します。

夢を追う人が輝き、力強いのは、目的・目標が明確であるからなのであります。



加藤 央
(モーリンググループ
技術顧問)

それは手つとり早くには身につけません。そこで、まず、個々の人達が「自己実現」を目指すことであり、そのためには、①身近な目標を設定する、②それを何かなんでもやりぬくというくりかえしによるしかないと思います。その意味で、この「改善発表会」は、自己実現⇩グループの力の結集⇩森松の成長の糧⇩日本経済の土台という図式になるわけです。

実力をつけて、日本経済を支えよう。



鎌田 史郎
(モーリンググループ
経営顧問)

平成10年 10月の社内行事

1日(木) 第6回

元気が出る森松展

午前9時～午後6時

2日(金) 第6回

元気が出る森松展

午前8時～午後6時

3日(土)

第一土曜日休み

8日(木)

生地卸総会(東京)

// 丹後公園テニスコート

10日(土)

体育の日

18時

13日(火)

誕生会 12時 4F

16日(金)

改善会議 18時

// 丹後公園テニスコート

18時

17日(土)

第三土曜休み

19日(月)

中山さん誕生日

21日(水)

生産会議 17時40分

23日(金)

竹内さん誕生日

//

経営会議 16時

//

営業会議 17時

24日(土)

加藤さん誕生日

27日(火)

編集会議 17時50分

掃除

ある本を読んで、掃除には作法と方法があるという事が分かりました。やみくもにホウキを使い、ハタキでチリを払い、雑巾をかければ良いというものではない。

順番もあれば、場所や対象による違いもある。

道具も、いい加減なものではきれいに

くれない。雑貨屋で新しいのを買って

途によっては、使う石けんや薬液に

についても使い分けなければならない。

掃除をするには、床やかべやトイ

レの中をきれいにするだけではなく、

インテリアや置物、絵画、花などにっ

いても配慮する必要がある、美的センス

も磨かれていなければならない。

掃除が一見単純で誰にでもできそうに見えながら、根気がなければできない。

また、掃除をするために工場や事務所の中を歩きま

わることで、いかに余分なものが多いかわかり、ゴミ

を拾うことで、いかに物が大切に

されていないかがわかってくる。

いろいろ教えられる本でした。



(ひまわり) 大橋康成



編集後記

こんにちは。この度「波紋」編集部員を務めることとなりました林直樹です。

森松の社内報である本誌の制作に関わることとなり、新人です。至らない点多々あると思いますが聞き直って、出来ることなら今まで以上にみなさんに読まれるような紙面作りがしたいと思います。

先輩の皆さんどうぞよろしくお願います。



林 直樹

編集発行者
森松株式会社

編集責任者
妹尾峰男

平成10年10月1日
第160号